

プログラムを作きましょう

◎プログラムの考え方

- プログラムの骨組み（5W1H）を固めよう。いつ（時期や期間）、どこ（国立吉備青少年自然の家！）で、だれ（参加者や指導者）が、なに（アクティビティ）を、どのように（経費や方法）やるのか。それは何のためにやるのか——。大局的な視点で考え始めましょう。
- 同じ国立吉備青少年自然の家を利用するのでも、年度はじめのオリエンテーションのために利用するのとクラブ活動の強化合宿で利用するのとでは、プログラム全体ががらりと変わります。

◎活動プログラム——ねらいをしっかり定めよう

- 活動プログラムのねらいも、団体によってさまざまです。例えば、2101 野外炊事を例に取ったとき、「食」を通して季節を味わう」ということが野外炊事のねらいであれば、注文する材料の種類から吟味が必要です。もしも「段取りによって作業効率が向上することを実感したり効率を考えた作業の重要性に気付く」ということがねらいであれば、最高最良の環境を整えることよりも、ある程度不便さを残した最適の環境を準備することが重要となってきます。ねらいに応じて、活動プログラムの展開の仕方にも工夫を凝らしましょう。



◎小ネタの準備は万全ですか

- それ自体は、活動プログラムとはならないものの、子どもたちを活動に惹きつけたりやる気を出させたりすることができる教材や教具を小ネタと言います。参加者の興味関心はさまざま、どこに食いついてくるか人によって千差万別です。小ネタはある程度豊富に準備して小出しにし、いろいろな変化球を出せるようにしましょう。